

事例8

< 事例概要 >

- ① 40 歳代、女性、身長150 cm台、肺高血圧症（疑い）、肝硬変、食道静脈瘤、血小板減少（ $1.6 \text{ 万} / \mu\text{l}$ ）があり、虚血性心疾患疑いで救急搬送された患者。抗血栓薬の使用は無。
- ② 急性冠症候群と肺高血圧症の精査のため、肺動脈カテーテル検査と冠動脈造影検査を実施（使用したカテーテルのバルーン適正容量1.0 ml）。
- ③ X線透視下で、右内頸静脈より肺動脈カテーテルを挿入。カテーテルを肺動脈に誘導できずガイドワイヤーを使用して前進。その後、咳嗽が出現。バルーンを2 ml膨張させ肺動脈楔入圧を測定し、冠動脈造影を施行。
- ④ 検査終了後、湿性咳嗽が持続。経皮的動脈血酸素飽和度（ SpO_2 ）80 %台へ低下し、酸素2ℓ開始。血痰あり、食道静脈瘤破裂を疑い集中治療室へ移動中に中等量の喀血。心肺停止となり、検査開始約3 時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、右中葉肺動脈分岐部あるいは右前肺底動脈分岐部の損傷を契機とした右心不全。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。